

1~2面 クリスマスメッセージ

3面 北海道地震・西日本豪雨被災者支援

4~6面 大阪YWCA100周年
「ガールズ・パワーアップ・プロジェクト」

The Young Women's Christian Association YWCA

(第32総会期主題聖句)
平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

(日本YWCAの使命(ミッション))
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

(日本YWCAのビジョン)
地域で女性達が主体的に活動することを通して、
以下の社会をめざします。
(1) 平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
(2) 女性と子どもの尊厳を守る社会
(3) 若い女性がリーダーシップを発揮する社会
(4) 多世代・多文化で多様な背景を
持つ人びとを尊重する社会

12

DECEMBER
2018

No.747

www.ywca.or.jp

光は暗闇の中で
輝いている。

(ヨハネによる福音書1章5節)

ブルー・クリスマス札拝

だれにでも夜は来ます。

周りが真っ暗になって、何も見えなくなる時があります。夜は必ず明け、朝がやって来ます。でも、そのことが見えなくなる時があります。長い長い夜がいつまでも続いて、光が差し込ま

神は痛みの中に



いますか？ 愛する人を失った人たちのための札拝です。孤独や痛みを抱えている時、華やかな場所では、まるで疎外されているように感じることがあるかもしれません。「ブルー・クリスマス札拝」は、私たちの人生に悲しみの夜があるように、寂しさを抱えた私が、ありのままの姿で涙と共に参加できる札拝です。

増田 琴
日本基督教団経堂緑岡教会牧師

「ブルー・クリスマス札拝」を知って
ないと思える時があります。
クリスマスを迎えるシーズンには、街中キラキラとイルミネーションが輝き、まるで暗闇がないかのような光景が広がります。そこに悲しみの居場所などないかのように。でも、クリスマスカードを送る時に思い出すのは、その年に愛する人を亡くした人たちです。
そう。年賀状は相手の家族が亡くなると控える場合がありますが、クリスマスカードはそういう人にこそ送りたい。クリスマスは、神が私たちの最も深い痛みの中に来られたことを覚える時だから。

エンパワーするNGO



クリスマス募金2018

Immanuel

「神さまがわたしたちと共におられる」ように、YWCAの活動も、大切な誰かと共に。

東日本大震災被災者支援募金

東京電力福島第一原子力発電所の事故からまもなく8年になりますが、いまだに事故の終息は程遠く、放射能被災による健康被害や環境汚染は深刻です。日本YWCAは被災地に暮らす子どもたちのためのリフレッシュプログラム、セカンドハウス、活動スペース「カー口ふくしま」を拠点とした事業で支援活動を続けています。

ピースメーカーズ募金

日本YWCAは「平和を実現する人々は幸いである」をテーマに、一人ひとりがピースメーカー(Peace maker)として、人権、健康、環境が守られる平和な世界をつくり出す活動を展開しています。未来を見つめて、活動しようとする人たちのリーダーシップ養成に、ご協力をお願いいたします。

オリーブの木キャンペーン募金

紛争が続くパレスチナの地に、人々の生活の源であるオリーブの木を植える「オリーブの木キャンペーン」(パレスチナYWCAと東エルサレムYMCAの共同事業「JAI」)を応援しています。1口3,000円で1本の苗木を植えることができます。寄付者にはパレスチナから証明書が送付されるので、通信欄にお名前をローマ字表記で必ずご記入ください。

郵便振替 00170-7-23723

加入者名 公益財団法人 日本YWCA

通信欄に「クリスマス募金(被災者支援)」「クリスマス募金(ピースメーカーズ)」「クリスマス募金(オリーブの木)」のいずれかをお書きください

お振込み先

ご協力ありがとうございます

賛助費
都木恵子 太田玲子 萩尾出穂
村上知子 杉本陽子 今堀愛子
阿武桂 古川道子 宇都宮芳子
江崎啓子 五味優子 武藤佐知子
青木浩子 一杉静子 稲葉和寿子
芳川雅美 内海公子 長尾眞理子
日本キリスト教会 袋井愛野のぐみ教会

ピースメーカーズ募金
(平和をつくり出す女性のリーダーシップ養成)

都木恵子 古川道子 杉田真理
高木博巳 柳津津保 和田昭穂
大澤昌平 大澤遼子 飯島康江
河野俊彦 河野園子 石井政利
岡崎公子 阿野園子 川上知志
中田貞子 竹内順子 上遠恵子
高橋玲子 赤壁知子 塚本健子
塚本潤子 山根恵子 田中英子
森本智子 市橋佳子 木村祥子
中村清子 内山康一 岩田陽子
飯島慶子 廣弘礼子 千葉祥子
水井一美 岡田啓子 佐藤孔美
高橋進 木戸光一 石川日出男
李明生 石川光枝 兼岩恵美子
高橋隆 石川和枝 兼岩恵美子
中川清 宮川篤子 武藤佐知子
安達康 一杉静子 近藤承神子
大江浩 谷川泰子 富沢寿美子
清水洋二 清水則子 西之園路子
村岡愛子 神社忠子 実原千頭子
福本佑子 宮川忠夫 百武真由美
片瀬眞理子 山二起世子
小林ミチエ 尾崎裕美子
とわの森二愛高等学校 生徒・教職員一同

災害時支援募金
(国内外の災害被災者支援)
都木恵子 萩尾出穂 村上知子
杉本陽子 今堀愛子 青木浩子
一杉静子 鶴崎祥子 武藤佐知子
長尾眞理子 大西しげ子

あかし読書会

東京YWCAまきは保育園
鎌路YWCA
札幌YWCA
一般財団法人函館YWCA
仙台YWCA
湘南YWCA
甲府YWCA
相模YWCA
熊本YWCA

オリーブの木キャンペーン募金

小淵真理 林育一郎 田林綱紀
藤浦真由美 佐々木桂来
(北海道地震被災者支援募金)
北池よね 関もつみ 三本亮子
内山康一 川島壽子 松下起子
小村明子 成田直輝 鶴崎祥子
郡恭子 高嶋智重子 幡江美智子
宗教法 日本福音ルーテル教会
湘南YWCA
匿名
東日本大震災被災者支援募金
太田玲子 村上知子 杉本陽子
今堀愛子 古川道子 一杉静子
藤野尚子 本多峰子 石川瑛子
名倉雅子 名倉裕子 名倉葉子
吉村共介 柏原眞澄 中村豊美
八幡道子 滝眞理子 岸都子
小林幸子 廣嶋都留 沖島幸子
武藤佐知子 尾澤うめ子
こひつじ保育園
日本聖公会東京教区 東京聖三一教会
甲府YWCA
匿名

(2018年8月16日~10月15日
現在 敬称略)

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel. 03-3292-6121 Fax.03-3292-6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp

編集発行人 実生律子/偶数月1日発行

旬な情報発信しています | メルマガ登録 y-net@ywca.or.jp | にお名前を送ってください / フェイスブック www.facebook.com/YWCAJapan

クリスマスは、一年で一番夜が長い冬至の時期に守られます。長い夜に、独りでその暗さの中にいるのではなく、その夜に私たちのとりに来られたイエス・キリストを共に迎える時です。

神の独り子イエスは闇の中に来られた。だから、私たちの闇がどれ程濃く、深いと思える時にも、私たちは光の方へ顔を向けることができる。

**言は肉となつて、
わたしたちの間に宿られた。**

(ヨハネによる福音書1章14節)

暗闇の中に座っている

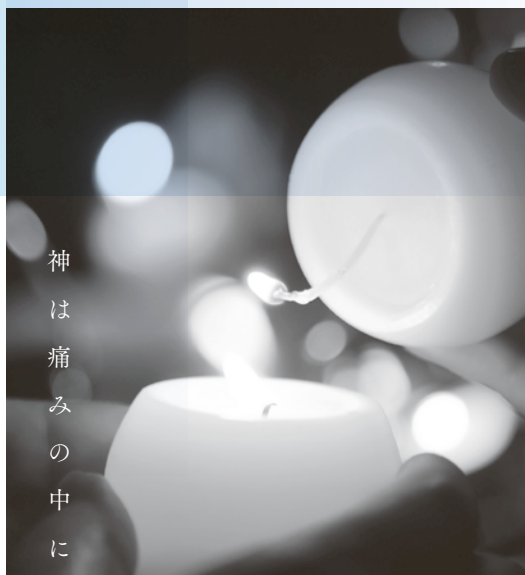
クリスマスは、神が私たちの痛みの中に来られた時だと、深く知った出来事がありました。

2004年のクリスマス。「ダリット（カースト制度の外に置かれた最下層）」と先住民の自立支援プロジェクト」に参加するため、インド南部を訪れました。

インド洋沿岸地域が大規模な地震と津波による甚大な被害を受けたのは、クリスマス直後の日曜日の朝でした。海岸近くの教会では、礼拝をしていた多くの人たちが倒壊した礼拝堂の中で亡くなりました。子どもを抱いたままの母親もいました。海辺では、船は打ち上げられ、網などの道具もぼろぼろのただの縄になっていました。

ダリットのジョン牧師を訪ね、礼拝に参加しました。クリスマスを迎えた喜びのうちにあるはずの礼拝が、弔いの礼拝となりました。

死の匂いが立ち込めているような中で、それは深い



神は痛みの中に

闇、暗さの中にあるように思いました。人々はそれを sit in the darkness (暗闇の中に座っている)、と言いました。暗闇の中に放り出されている、と。

だれも言葉を発することができないような礼拝の中で、ジョン牧師は静かにヨハネによる福音書から語り始めました。

「神はわたしたちの間に宿っている。」
形をなくし、生きる術を失い、もはや全く先行きが見えない。私たちは確かに暗闇の中に座っていました。

弱さの中で輝く光

「しかし」とジョン牧師は続けます。神は初めに「光あれ」(創世記1章3節)と言われたように、絶望的な状況の中で、光があると語りかけられた。「神の独り子イエス・キリストが来られたことは、その神からの語りかけなのだ」と。

「私たちの間に宿られた」という聖書の言葉は、もと

もと「テントを張る」というギリシャ語でした。動詞にすると「身を傾ける」となります。クリスマスは、闇のような現実の絶望と不安、悲しみの中に「神が身を傾けて」おられることを伝えてくれるのです。聖書によるとそれは、決して万能の力に満ちた姿ではありませんでした。むしろ、明日の暮らしの確証がない難民の一人のように、私たちの間に宿っておられるのです。何も生み出すこともできないかのような私たちの間に。

その言葉は確かに、人々がもう一度立ち上がるための支えとなりました。

私はこの時、クリスマスの意味をしっかりと胸に刻みました。そうです。この私たちの間に。悲しみや痛みがあり、途方にくれることもある。八方ふさがりに感じられる現実が立ちだかっているかもしれない。けれども、神の光は、その弱さの中にある姿において、一人ひとりの内にある力に働きかけます。

光が届きますように

クリスマスイブは、多くの教会で「キャンドル・サービス(ろうそくを用いた礼拝)」を守ります。そこに集う一人ひとりのろうそくに灯をともします。それは、神が私たちに与えておられる光が、闇の中にある人に届けられるように祈る礼拝なのです。

暗闇の中でもがいているような中で、テントを張るように共に座し、語り合う。そんな光を灯す働き、イエス・キリストを宿す働きが広がっていきますように。最も祈りを、支えを必要としている人のもとに届けられますように。皆様の心の内に、神の愛がとどまりますように。クリスマスを迎える時期に、祈りをあわせたいと思います。

**北海道胆振東部地震・西日本豪雨被災者支援
顔の見える信頼関係を築いて
変化していくニーズに応える**

今年、北海道・西日本各地に甚大な被害をもたらした二つの大災害に際し、日本YWCAでは国内外に向けて被災者支援募金を呼びかけました。刻々と変化する被災地のニーズについて、顔の見える信頼関係のもと支援を続けている地域YWCAから報告します。

北海道胆振東部地震

**本格的な冬を迎える
被災地にあつて**

9月6日、最大震度7の揺れに襲われてから3か月になります。直後から皆様にお見舞いをいただき感謝しております。札幌YWCAと函館YWCAは、日本YWCAと協働し被災地支援活動を行っています。

震災直後、私たちは札幌市清田区の里塚地区の液状化を視察しました。札幌市内で最も多くの家屋が倒壊し、現在も液状化が進行している地区です。雪の季節になると、どこの家も除排雪作業に追われる北国の環境です。地震でできた道路の陥没や歪みによる積雪被害や除排雪作業の困難さ、避難されなかった住民の除排雪費の負担が課題となっています。札幌YWCAは、皆さまからいただいた義援金100万円をこの里塚地区に寄贈しました。



一見分かりにくいですが、液状化現象により地盤沈下が進み、道路は激しく陥没。民家が傾いている(札幌市清田区里塚)

は、地震により家屋内で倒壊した家具や壊れた食器などを運び出す作業に追われ、冬の寒さに備える余裕はありませんでした。私たちは各町の災害ボランティアセンターを訪ねて長期支援について意見交換をしました。災害支援プロジェクトから「むかわ

町子ども発達支援センターたんぼぼ」の保育士補助の派遣の要請を受け、10月には札幌バプテスト教会・日本福音ルーテル教会の協力を得てボランティアを10日間ほど派遣しました。今後は、「たんぼぼ」の子どもたちのためにクリスマス会やお楽しみ会を実施します。

冬の到来を見越しての冬物衣類の調達を函館YWCAが担当し、ユニクロ・GUから冬物下着100枚を、個人から靴下200足タートルネック50着いただきました。早速に配布します。手作りの焼き菓子などを持つての戸別訪問も計画しています。今後、も外からは見えにくいニーズを拾い、細やかな支援を続けていきます。今後も日本YWCAウェブサイトでも順次報告します。

札幌YWCA

西日本豪雨災害

**孤立した住民の
つながる場を支える**

6月28日から7月8日にかけての集中豪雨による災害へのお見舞いがありがとうございました。呉YWCAは高齢メンバーですが、私たちができることとして募金活動をはじめました。また、古い会館の傷みも生ぜず断水や停電の被害にも直接あわずに済んだので、地域の方々に給水の支援と洗濯機の提供を行いました。同時に、呉市内のキリスト教超教派で活動をしている「キ

北海道胆振東部地震被災者支援募金にご協力をお願いします!

皆さまのご協力・ご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

郵便振替：00170-7-23723 公益財団法人日本YWCA

*通信欄に「北海道地震」と明記してください。

銀行振込：三井住友銀行飯田橋支店(普) 1198743

*銀行振り込みの場合は、必ずメールにて日本YWCA (office-japan@ywca.or.jp) へ、①お振込み日 ②金額 ③お名前 ④ご住所 ⑤「北海道地震」をお知らせください。

第2期締め切り：2019年3月31日(日)

※西日本豪雨災害支援は、これまで皆様から寄せられた「災害時支援募金」を用いて行っています。

知識と仲間を得た今、 新たな一歩を踏み出す

「何か新しいことを始めたい」と思っていた私は、大学でこのフォーラムの説明を聞いて参加を決意しました。準備期間中は、フォーラムリーダーは初日のアイスブレイキングと2日目の「グローバル・ピース・ナイト」の企画を主に話し合いました。準備にかける日数が少なくリーダー7名が全員集まることも難しい中で、参加者一人ひとりが言語や年齢を超えて楽しめるようにするにはどうすればいいか、より良いフォーラムにするにはどうすればいいかを知恵を絞り、話し合いました。

当日はプログラムが予定通り進まないことやトラブルに見舞われる場面もありましたが、参加者全員で助けあい、国際フォーラムを成功に導くことができました。また、参加者がフォーラムを通してエンパワーされる様子を目の当たりにしたことは、私にとって非常に興味深か



大阪YWCA会員
小郷あかり

ったです。

私は、このフォーラムを通して大切な仲間を得ました。参加しなければ、社会問題について語り合える仲間を日本にも海外にも持てることはなかったでしょう。また、参加者たちとさまざまな問題について話し合う中で、自分も世の中をより良くするために具体的な行動を起こしたいと考えるようになりました。「何かをしたい」と感じたのは私だけではないはず。ここに集った参加者たちは、知識と仲間を得ました。あとは世界を変えるための第1歩を踏み出すだけです。

VOICE

フォーラム リーダーの 声

この催しの成功には、フォーラムリーダーの活躍がありました。企画立案から準備作業、一部プログラムの司会進行で場を盛り上げるなど、主体的にリードしました。



大阪YWCA
100周年記念
フォーラム開催

世界YWCA副会長
アンドレアさんの力強い講演は
参加者の心を動かし



タイ、ネパール、ミャンマー、
オーストラリアなど多地域
からメンバーが集まった



若い女性の
国際フォーラム
2018年8月10日~12日

ネパールからの参加者が提起した
 이슈「生理中の女性の隔離」に
 についてディスカッション

多様な若い女性たちの リーダーシップが開花する

大阪YWCAは、1918年の創立当初から若い女性が自立して生き生きと生きるためのサポート活動に取り組んできました。100周年を迎えるにあたり、YWCA運動の原点に立ち返ろうと「ガールズ・パワーアップ・プロジェクト」を立ち上げて、多岐にわたるプログラムを展開してきました。その集大成として、8月10日から3日間開催された「若い女性の国際フォーラム」の様相を報告します。

一人ひとりが自分自身も
相手もエンパワー

国内外から集まった31名の参加者は、おおよそ25歳までの若い女性たちです。そのうち7名はリーダーシップトレーニングを受け「フォーラムリーダー」として企画運営に携わりました。アジア太平洋地域のYWCAのメンバー7名のほか、日本語を学ぶベトナムの留学生など多様な地域からメンバーが集まりました。



困難を抱えた少女が輝きを取り戻すための支援策を演劇で表現した

交わす時間を持つことができず。午後はホンジュラスから来た世界YWCA副会長のアンドレア・M・G・ディアスさんが講演し、ホンジュラスの若い女性が直面する厳しい現実が語られました。講演後はグループに分かれ、困難を抱える少女がハッピーエンドを迎えるストーリーを構想し、演劇



リーダーたちの若いセンスから生まれた企画
私の気分を上げるファッションショー

形式で発表。参加者たちは当初ストーリー作りに苦戦していましたが、最後は堂々とした演技を見せてくれました。この夜は「グローバル・ピース・ナイト」と称して、ファッションショーなどを開催。「気分を上げる服」をテーマに、自分にとって特別な服を身に着けてランウェイを歩き、思いっ

きり自分を表現しました。3日は未来を描くセッション。社会を変えるためにYWCAでできることなどを話し合い、ビジョンを共有しました。濃密な3日間を過ごしてエンパワーされた若い女性たちは、志を新たにそれぞれの地へと戻っていきました。

大阪YWCAが若い女性をエンパワーすることを目的としたプロジェクトですが、最も彼女たちをエンパワーしたのは彼女たち自身だと実感しました。失敗を恐れずにチャレンジする勇氣、心を開き他者の声に耳を傾ける姿勢が互いを刺激し力づけたのだと思います。

大阪YWCA会員
栗田明日香

出会いと対話から 学んだことを発信したい

リーダーの一人として関わり、通訳やファシリテーター、司会などさまざまな経験ができました。非常に刺激的な時間を過ごしましたが、プロジェクト全体を通して最も印象に残っているのは、ほんの数時間、数日のうちに参加者同士で自分自身についてたくさん話せたことです。リーダー同士も参加者もほとんど初対面で、年代や国籍も多様であるにもかかわらず、様々なワークショップの度に仲良くなり、自分の考えや体験を隠さずに話し合えました。このように居心地の良い場所であったからこそ、私自身も通訳など人前で話す機会にチャレンジできたのだと考えています。

2日目はアジア太平洋地域のYWCAメンバーと共に「私のナンバーワン 이슈」として、自国の女性を取り巻く問題を提起しました。海外メンバーが語る、



京都YWCA会員
東上菜々子

労働力や性的対象として搾取された実例には衝撃を受けると同時に、そのような問題が私たちのすぐ近くで起こっていることにも気づかされました。発表と議論を通して、参加者それぞれの中で問題意識が高まったため、今後は私たちが今実際に起こっている女性が直面する問題についてもっともっと発信し、人権侵害に反対する声を上げていかなければならないと気づきました。

今後は、フォーラムで出会った仲間と一緒に、ここでの経験と学びを発信していきたいです。



Girls Power up Project



『YWCAブックレット』創刊

ようこそYWCAへ!

日本YWCA人材養成部会から『YWCAブックレット』シリーズが創刊されました。第1号は、初心者を対象にしたYWCAの自己紹介ともいえるべき小冊子です。今後もさまざまな切り口で展開する本シリーズのコンセプトや魅力を紹介いたします。

創刊号はYWCAの紹介号 シリーズ化して続々発行

「ようこそYWCAへ!」。今秋日本YWCA人材養成部会が発行した『YWCAブックレット』創刊号のテーマです。人材養成部会は、全国24の地域YWCAと37の学校YWCAを拠点として活動する会員(ボランティア)のリーダーシップ養成を目的に、『YWCAブックレット』をシリーズ化し、随時発行します。これまでYWCAが行ってきたこと、そして未来に向けて描く夢、そこに集まって活動している人たちのことを、毎号ギュッとポケットサイズの1冊にしてお届けします。

創刊号のブックレットは、YWCAの活動に興味を持ってくださった方や、初めて活動に参加される方向に向けたYWCAの紹介号としました。名前やロゴマークの意味、国内外のネットワーク、YWCAがめざすこと、大事にしていることなどを、その名のとおり、若者 Young、女性

Women、キリスト教を活動の基盤とするChristian、そして人と人の集まりや組織を表す Associationの順に紹介しています。

創刊号に続いて、第2号は「歴史一女性の自立をもとめて」第3号は



日本YWCAウェブサイトより
ダウンロードできます!

<http://www.ywca.or.jp/news/2018/1023news.html>

「世界YWCA ビジョン2035」のテーマを予定しています。歴史を振り返って活動の原点に立ち帰りつつ、素敵な未来図を描いて、平和な社会をつくり出す女性たちの人材養成の資料の一つとなればと願い、ブックレットの編集作業を進めています。

YWCAの活動を担っているのは「会員」と呼ばれるボランティアです。YWCAの特徴は、会員が活動の企画・運営に主体的に関わり、責任をもって活動を推進していることです。YWCAは24の地域YWCAと37校の学校YWCA、さらに準加盟の3団体が、実に多様な女性と少女の課題に取り組んでいます。その課題を解決し、共にいのちを愛しむ平和な世界をつくり出すために、活動をとおしてチカラをつけていく、それがYWCAの魅力ではないでしょうか。そんなYWCAのこと、ブックレットを通して感じてみませんか。

日本YWCA人材養成部会

YWCAで活動している皆さん

ブックレットは皆さんの活動の名刺代わりに利用できます。お知り合いに手渡してください。制作にあたり、皆さんからのリクエストを受け付けています。YWCAの会員や職員のリーダーシップ養成のために「あったらいいな」「学びたい!」という内容をお知らせください。ぜひブックレットのテーマにして発行しましょう。人材養成部会はブックレットを用いた出前研修も行います。気軽に声をかけてください。

そうだ、YWCAへ行こう!

各地域のYWCAではさまざまなプログラム、イベント、学習会などを開催しています。気になるテーマを見つけたら、どなたも気軽にどうぞ! また常時、会員(ボランティア)を募集しています。あなたの得意なこと、好きなこと、関心のあることをYWCAで深めてみませんか。新しいアクションを起こしたいという方も大歓迎。地域のYWCAが運営するカフェに立ち寄ることから始めてみるのもオススメです。「YWCAがどこにあるのか分からない」という方には、お近くのYWCAをご紹介します。

お問い合わせ TEL 03-3292-6121 日本YWCA人材養成部会

大阪YWCA 100年目の夢

少女たちよ、 女性たちよ、 大志を抱いて前へ!



大阪基督教女子青年大会(発足式)

1918年、大阪の天王寺公会堂に約1000人の女性や少女が集結し、大阪基督教女子青年大会(発足式)が行われました。それから100年目を迎えるにあたり、大阪YWCAは創立時の原点に立ち返ると共に未来を見据えて「ガールズ・パワーアップ・プロジェクト」を実施しました。そこに込めた想いを共有します。



富士岡荘で行われた夏期修養会(日本YWCA)

100年前の志 廣岡浅子が奔走
大阪YWCA創立準備委員長の廣岡浅子はNHK連続テレビ小説の「あさがきた」で有名になりました。ドラマでは、日本初の女子大設立に尽力した女性実業家としての成功が描かれました。そんな廣岡浅子が実業家を引退し、最後の10年にエネルギーを注いだライフワークは、



天満時代の英会話教室

「女子の社会教育」でした。学校教育はもとより、真に平和を実現し、女性たちがその一生を幸せに元気に生きるために必要なもの、それは生涯にわたる「包括的な社会教育」であると見抜いていたのです。数え年63歳でキリスト教と出会った浅子は日本YWCA中央委員を経て、地元大阪にYWCAを設立するために尽力したのでした。
大阪YWCAは創立当初から、若い女性が自立して生き生きと生きるためのサポート活動を大切にしてきました。大正時代に、少女たちのためにグループワークを取り入れ、リーダーシップやメンバースhipを、楽しい活動を通じて育んでいたのです。その学びは、常に、「自分に出会い、人に出会い、社会に出会い、神に出会う」ものでした。

100年目の想い 原点に立ち返る

しかし100年を経た今、少女たちは日本で、世界で、十分に力を発揮しなから生きることができているでしょうか?さまざまな統計から見えてくるのは、まだまだ女性差別や偏見が根強く、若い女性たちの夢や実力を活かすにはハード・ソフト両面で課題が山積しているという現実です。

私たちは創立100年を迎えるにあたり、改めて原点に立ちつて「ガールズ・パワーアップ・プロジェクト」

を立ち上げました。おおむね中学生から25歳までの女性のリーダーシップ・トレーニングとエンパワーのために、プログラムを積み重ねてきました。この夏には、アジア太平洋地域のYWCAの若い女性リーダーたちを大阪に招へいし、国際交流による研修の機会を提供。さらに集大成となる「若い女性の国際フォーラム」を開催し、日本の若い女性たちと海外の同世代の女性たちが出会い、世界や日本の現状や課題を共有し、一人ひとりが社会の主役として課題を解決するためのリーダーシップ・トレーニングを実施しました。

これからの夢 未来のタネを蒔く

大阪YWCAの志は100周年が過ぎても変わることはありません。私たちの夢は、一人でも多くの少女や若い女性たちが、YWCAに集い、出会いと学びの中で、自分と仲間を好きになって、平和が実現する世界を作っていくこと。そのために、さらに100年後を見据えて少女たちの知恵と力とスキルを磨いていくことです。

またそこでは、私たちサポートする側にも知恵と力とスキルが求められています。今の私たちは、100年前の先輩たちの植林の果実をいただいています。一方で100年後の人たちのために、聖句にある「涙と共に種を蒔く人」でもあります。時代の波は荒く険しくとも、さあ、少女たちよ、女性たちよ、共に大志を抱いて、前へ!

大阪YWCA ガールズ・パワーアップ・プロジェクト長 金香百合



「若い女性の国際フォーラム」参加メンバー

創立初期のスタッフ

Girls Power up Project



写真提供/公益財団法人大阪YWCA